

わたしたちの海について知ろう！学ぼう！体験しよう！

# 海から環境問題を考える！

## 近隣校と連携して、海や環境の授業

「海水に息を吹き込んで、BTB液を加えるとどうなるかな？」「青色が緑色になった！」

土曜の午後、東京大学理学部の一室で、10数人の小中学生の生徒たちが地球温暖化やサンゴ礁について、東大の茅根創教授の授業を受けていた。海水の酸性化の実験や、サンゴの観察などに取り組んだ。参加したのは、台東区立忍岡小学校の科学クラブ児童と台東区立上野中学校科学クラブの生徒たちだ。

東大本郷キャンパスまで徒歩数分に位置する忍岡小学校では、近隣の上野中学校や東大と連携して、「海」について知り、学ぶための科学授業を行っている。

「子どもたちが自分たちの目線で海や環境問題をとらえ、課題を追求していくことを目的にしています」と吉藤玲子校長は言う。



東大で上野中学と特別合同授業

## 台 台東区立忍岡小学校



### ●実施担当

吉藤玲子 校長

### ●活動のモットー

「自ら学び、考える」児童の育成を目指して、様々な活動をしている。国内外の方々と進んで交流できるコミュニケーション能力も大切にしたい。

創立141周年を迎えた伝統校。東京大学や上野公園、不忍池も学区内という恵まれた環境を生かし「科学教育」のほか「伝統文化」、「国際理解」など特色ある教育活動を行っている。

### 学校概要

設立：1875年  
生徒数：234名  
所在地：東京都台東区池之端2-1-22



「あっ、イソギンチャク移動してる！」



海で観察

## 海水の水槽を玄関前に設置、海の生き物への児童の関心が高まる

日頃から海や自然の環境と接するために、東大などの協力を得て小学校の玄関前に設置したのが、海水の水槽だ。中にはサンゴやクマノミ、イソギンチャクなどが生息している。水槽の前には、気付いたことをいつでも書き込めるよう、観察カードを常備した。

「毎朝学校に来ると水槽を目にするので、子どもたちの海への関心が高まったようです。夏休みの自由研究では、海の生き物について調べる子どもが増えました。子どもたちはサンゴがそもそも生きていると知らなかったの、よい学びになっているようです」と吉藤校長は話す。

近隣の不忍池や、毎年夏に出かける岩井臨海学園で、池の水や海水を採取し、顕微鏡で調べるなど、学校周囲の環境に沿った活動を続けている。さらに、小学校と中学校の連携授業を増やしていくなど今後、科学を通しての交流の連携強化も図っていく。

(平成28年度プログラム助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階 電話:03-5719-2125

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索